

①物語のその後を話し合おう

名前

みちくさ (一)

■ 全文を読んで、「①いつ(時)」「②どこで(場所)」「③だれが(登場人物)」「④何によつて(事件)」「⑤どうなる(変化)」語かをまとめてみましょう。

(れい)

①	六年生 じやらの帰り道	②	家下川	③	ぼく	④	魚つり
⑤	今まで大介に心のまよりをかんじていたが、いばに魚つりをして大介に再び親しみをかんじるようになった。						

■ 登場人物とそれぞれのせいかくをまとめてみましょう。

(れい)

登場人物	せいかく
ぼく	大介のことをよつちだと思っている。 大介より大人ぽいせいかく。
大介	いばいこうから変わらず、林や空き地であそぶよつちなせいかく。子どもぽい。

■ 次の四つのし点のどれかを選び、全文を読んだ感想をまとめてみましょう。

- ①おもしろかった ②よく分かった ③不思議に思った ④みんなて話し合いた

(れい)

①心のまよりをかんじているよつちな相手でも、いばになにかをしたり、話をしたりすると相手のことがよくわかり、仲良くなれるんだなと思った。魚つりのよつすがリアルでおもしろかった。

④「ぼく」は「大ちゃん」のことをはじめのように思っていましたか。教科書から見つけて書きましよう。

行動のほとんどが「理解不能」で、「よつち」である。

よつちの六年生とは「ずれている」。

★ちがう答えでも、消したり×にしたりする必要はありません。  
「なるほど」と思った文や答えを、自分が書いた答えのよこに、赤や青で書き足しましょう。

① 物語のその後を話し合おう

名前

みちくち (二)

① 二か所ある「不思議な気持ち」は、それぞれどのような気持ちでしょうか。ちがいが分かるように説明しましょう。

① 不思議な気持ちになっていた。(28ページ)

自分が今までようやくで理解不能だと思っていた大介といはに つりをしていることに少しとまどっている気持ち。

② なんとも不思議な気持ちだった。(31ページ)

大介に笑われて情けなく感じる気持ちと、二人でいをもつかまえて満足し、大介に親しみをかんでいる気持ち。

② 最後の「どこかなつかしいにおいがした(25ページ)に対して、感じたことを書きましょう。

(れい)

高学年になってあまりあそびはなくなたほくと大介が、いはに魚をもつかまえて昔のことを思い出して、二人からはまた低学年のときのようになかよくあそぶのではないかと思んだ。

③ 「ほく」の心情が伝わるように、もう一度音読しましょう。